

# 基本理念は昔も今も「済生利民」 日本生命病院として新しくスタート

公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院（大阪市西区江之子島） 院長 笠山 宗正



総合企画部長 許斐(このみ) 正啓  
院長 笠山 宗正

本理念としています。

翌年には日本生命本店の3階に無料健康相談所を開設し、生活に困った人々に対して医師が診療をしながら健康指導を行うなどの取り組みを開始したり、その年に発生した但馬・丹後地震では直後に救護班を結成し救護活動を行ったりしています。

大阪市西区立売堀にあった「日生病院」は誰もが知る病院の一つでしたが、今年の4月30日に西区江之子島に新築移転し、その名称も「日本生命病院」と改められました（いずれも最寄駅は阿波座）。笠山院長に、日生病院の歴史とともに新病院をご紹介いただき、新病院に込めた思いを語っていただきました。

—— こちらの病院の沿革などから教えてくださいませんか。

笠山 わたしたちの活動の母体である日本生命済生会は大正13年（1924年）に設立されています。まだ国民皆保険制度もなくすべての人が平等に医療を受けることができなかった時代です。設立の目的は日本生命の社是である『共存共栄』『相互扶助』の精神を实践するために医療と福祉を通じて社会貢献を果たすことであり、『済生利民（人の生活といのちを救い、直接人のお役に立つこと）』を基

共に発展してきました。開院当初は内科・外科・理学的療法科（現在の放射線診断科）の3診療科でスタートしましたが、昭和31年には病院を増築し病床数も現在の350床に増やしています。昭和57年には大阪市西区立売堀に新築移転し、大阪西部地域の基幹病院としての役割を担ってきました。

平成24年には大阪府より公益財団法人の認定を受けましたが、これは病院の運営以外に社会福祉に関わる活動をいくつか行ってきたからです。大阪市の約半数の児童養護施設の無料健康診断を実施しているほか、母子家庭のお母さんを対象にした無料乳がん検診を実施したり、「地域福祉研究」という福祉関連の研究論文雑誌を定期的に発行したりしています。第二種社会福祉事業である無料低額診療については昭和31年から継続して実施しています。

## 働く世代のための 予防も行える 病院でありたい

本院の成り立ちには企業立ですが、従業員・職員のための病院ではなく、地域の方々のための病院として作られた病院です。最初から地域貢献のために作られたという点が他の企業立の病院とは異なる点だと思います。

## 病院の運営以外にも 社会福祉に関わる 活動を実施

本院はその長い歴史の中で時代と

区、中央区は新築マンションが増え、大阪市内でも人口が増えている地域です。そして高齢化率が大阪府下で一番低いのが西区です。当院を受診される患者さんの約3割が西区の方ですが、4割が大阪市の他の区、そして2割が大阪市外、1割が他府県からです。ビジネス街である本町からも一番近い病院ということで、いわゆるアーバンホスピタルとも言えます。2年前から仕事帰りの方が受診できるように、週1回水曜日に夕刻診療を始めています。会社の人間ドックや健診の結果への対応を早くしてもらうことにより、疾病の重症化予防にもつながってもらいたいという思いからです。

## 健康長寿を目的とした 高度予防医療（先制医療）を

新病院では病院名称を「日生病院」から「日本生命病院」に改め、これまでの診療機能に加え、地域医療、救急医療、女性医療、特にこれからの高齢社会を支える診療機能を充実させました。90歳、100歳の方が元気で自立できる社会を実現しなくてはならないと多くの医師は考えています。そのためには病気が顕在化する前に介入していくことが効率的です。生命保険会社が関わる病院として、15年前に予防医学センターが作られました。健康長寿を目的とした高度予防医療（先制医療）などの診療をさらに推進するため、予防医学センターのスペースを1.5倍に広げました。これまで心血管病やがんに対する予防医療を主体に行ってきましたが、今後は認知症やロコモティブシンドロームなど高齢者のQOLを低下させる疾患の予防医療にも力を入れていきます。

今年で人口10万人を超えと言われている地域で小学校が足りないそうです。入院患者さんの年代別構成を見てもみまると、大阪市外の市民病院などに比べて比較的若い患者さんも多いことが、大きな特徴だと思います。西区、北

区、中央区は新築マンションが増え、大阪市内でも人口が増えている地域です。そして高齢化率が大阪府下で一番低いのが西区です。当院を受診される患者さんの約3割が西区の方ですが、4割が大阪市の他の区、そして2割が大阪市外、1割が他府県からです。ビジネス街である本町からも一番近い病院ということで、いわゆるアーバンホスピタルとも言えます。2年前から仕事帰りの方が受診できるように、週1回水曜日に夕刻診療を始めています。会社の人間ドックや健診の結果への対応を早くしてもらうことにより、疾病の重症化予防にもつながってもらいたいという思いからです。

## 診療科、診療センターを増設 診療内容の更なる 充実を図る

新しく生まれ変わった日本生命病院は350床の中規模の病院ではありますが、27の診療科と7つの診療センターで構成されています。平成28年より腎臓内科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、形成再建外科、放射線治療科、リハビリテーション科、血液浄化（腎臓・透析）センター、脳機能センターを新設し、診療内容をこれまで以上に充実させています。

320列CTを2台、3・0テスラMRIと心臓専用血管造影装置を増設し、PET-CT、手術支援ロボットダヴィンチや高精度放射線治療装置True Beamなどを新しく導入しました。当院では以前より産婦人科が充実していましたが、婦人科の良性・悪性の腫瘍にもダヴィンチを用いた手術を開始しました。4月から健康保険適用になっていきます。救急医療のスペースも4倍に拡張

しました。救急の専従医師も3名体制となり、救急医療の充実を図りました。また血液浄化センターでは人工透析のベッドを3床から20床に増やしました。透析患者さんの合併症や手術にも対応できるように、体制も整備しました。

## コンセプトはアット&ライフ アットと融合したまちづくり

さらに、新病院では医療にアットの要素を取り入れたホスピタルアットを提供できるよう、患者さんやご家族だけでなく近隣の住民の皆さまにも、心地よい環境（ホスピタルコリドー、イングリッシュガーデン、レストラン、カフェ・ベーカリー、コンビニ、絵画、コサート、手作り教室など）を備えています。

設立後90年以上を経た今もなお、脈々と受け継がれてきた『済生利民』の精神に基づいて、予防から治療・在宅まで一貫した医療サービスを提供し、皆さまから愛され信頼されるよう努力して参ります。



### ◆笠山 宗正(かさやま そうじ)プロフィール

- 昭和55年 大阪大学医学部卒業
- 昭和62年 米国立衛生研究所(NIH)に留学
- 平成元年～ 大阪大学医学部第三内科、同分子病態内科学講座准教授、大阪大学医学部附属病院内分泌・代謝内科病院教授を歴任
- 平成19年 日生病院副院長兼総合内科部長を経て
- 平成25年～ 日生病院院長(現在に至る)  
大阪大学医学部附属病院臨床教授  
専門は内科(特に内分泌疾患・糖尿病)